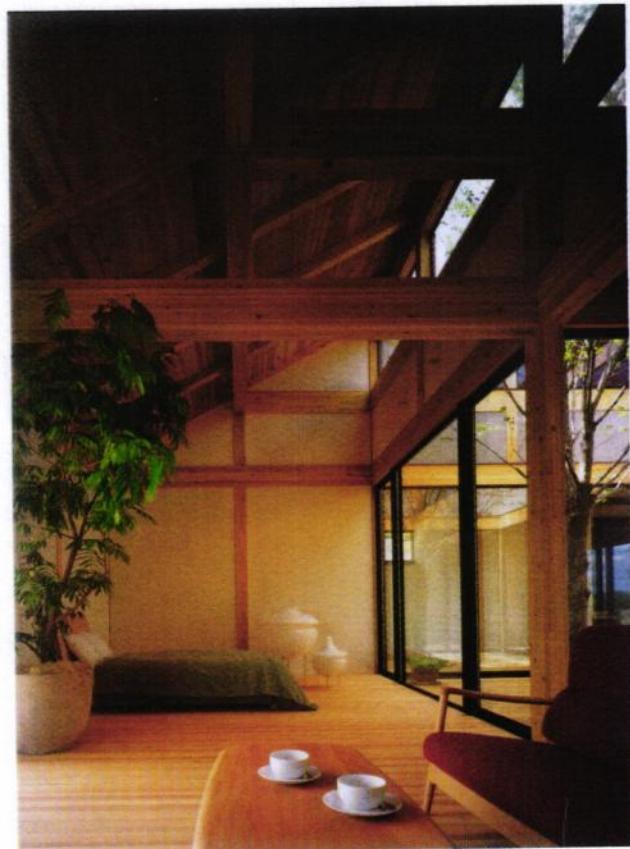


SORA-MADO



2009年 グッドデザイン賞 受賞

「そら」の下には平等がある



2008年 グッドデザイン賞 受賞

現代人の暮らしは、開かない窓の存在によってさえぎられてしまいまし。風を感じることもない日々の繰り返し、見上げると、「そら」がありました。差しこむ光と流れる空気を部屋に取り込むと、開放感あふれる自由な発想が生まれます。日々の暮らし体験を見据えながら居住空間をデザインする住まい方の提案です。



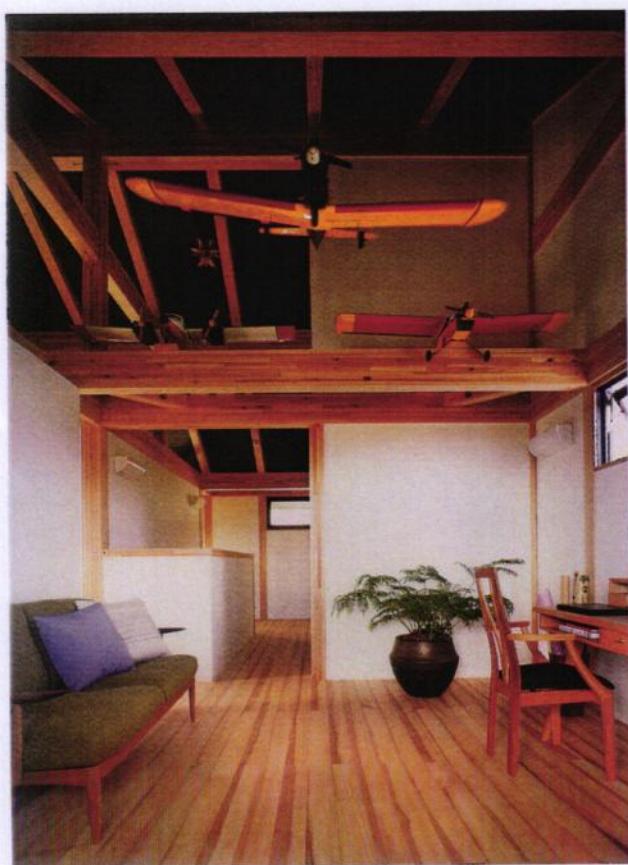
施工面積 112.5m² (約34坪)

みんなの家



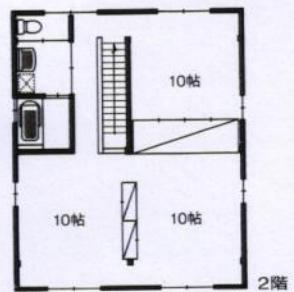
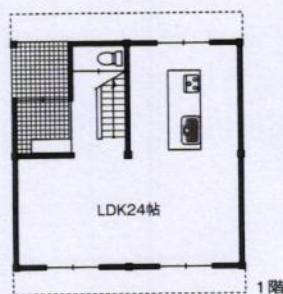
2010年 グッドデザイン賞 長官賞 受賞

ここは、みんなが集まる家



プランは写真とは異なりますが、標準プランです。

家族がくつろぐ空間であったリビングを、家族のような「ともだち」との交流を楽しむカフェに。玄関は内に開かれ、プライベートな空間は1階よりも広い2階に確保します。個人の部屋は平等になり、子どもにとって家全体が勉強部屋に。「みんな」のための家は、新しいライフスタイルを受け止め、生み出す家となります。



施工面積 1階 53m² 2階 66m² 合計 119m² (約36坪)

「天気のいい日は、青空教室。」



「お出かけする靴、散歩する靴

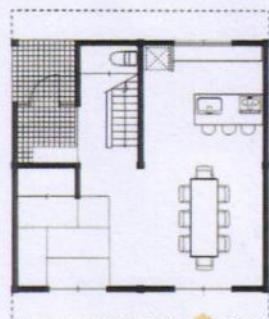
ハイキングする靴…。

うちでは、シーンごとに
家族の靴をまとめておく。」

「夏休みが終わっても
観察日記は続けている。」



「玄関を開けると、
いつものみんなが盛り上がっていた。」



対面キッチンにちょっとした和室。
家事をしながらでも、家中を見わたせ、
ゴロンと横になれる畳がうれしい。
そんなに寄せてらわなくても、
オーバードックスに暮らせば良い。
いつも家族が過ごしているのは、
大きな8人掛けのダイニングテーブル。
とっても自然な家だから。
自然と集まってきて、
自然と席を立つ。
家族みんながそれぞれの時間を、
思い思いに過ごしている。

「当番や分担じゃなく
手の空いている人が、
洗濯をすること。」

「家にもって帰った仕事も
家で待ってる仕事も
一緒にかたづけなきゃ。」

「今日は、
妻が残業の日。
晩御飯に
何をつくろうか？」



「うちの子は、
キッチンで
勉強している。」

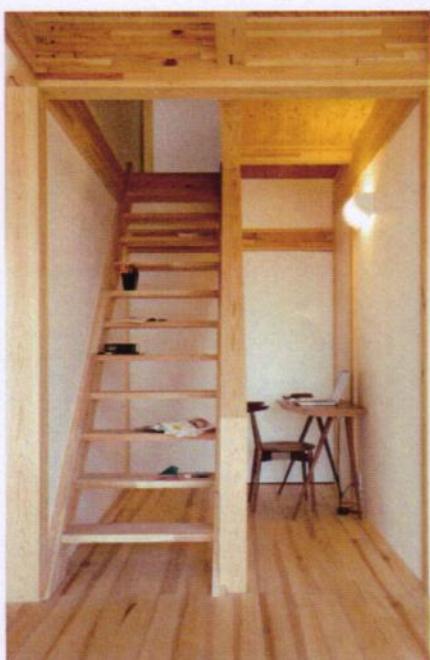
「狭い部屋って
意外と落ち着く。」

「土間ってなんか
良いなと思って
憧れていたんだ。」

最近流行のアイランドキッチン。
料理の時にはみんなが集まる。
キッチンに立つの、
男も女も関係ない。
見せながら振る舞う料理の腕は、
もうなん度も試して磨いてきた。
アトリエキッチンとしての見せどころ。
そして贅沢にも、
くつろぎの場所は2つある。
玄関脇のリビングと、
もう一つは6畳の和室。
床の間も作ろう、仏壇も作ろう。

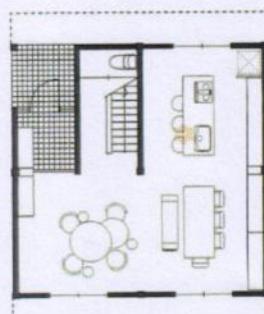


「子どもたち。小さな
お尻を並べて勉強会。」



「グルグルまわりを回れる
アイランドキッチンって、
何人もで料理ができる使いやすい。」

「この友だちの家のキッチンに、
マイカップが置いてあるんだ。」

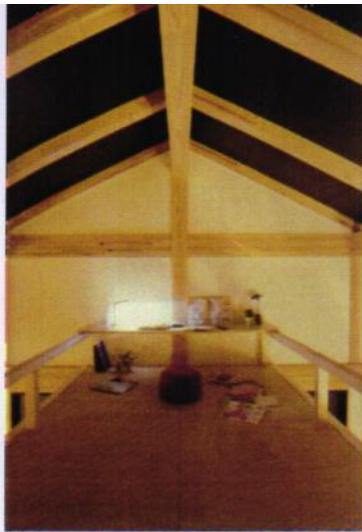


カフェはとても緩やかなスタイル。
床座からイス座へのつながりも、
背もたれのない一台のカウチが、
緩やかに結びつけてくれる。
どちらの目線にも合わせられる高さ。
アイランドキッチンの横に、
ダイニングテーブルがつながれば、
部屋全体がなだらかに一体となる。
上座や下座の意識もなく、
「ともだち」と「かぞく」の境もない。
来る人の顔が違う度に、
自分の居場所が緩やかに変わってゆく。

「キッチンでコトコト煮込む音。
リビングで雑誌をめくる音。
2階の足音。
家の中って楽しい音で
あふれている。」

「庭で食べるときには、
お父さんがいつもシェフになる。」

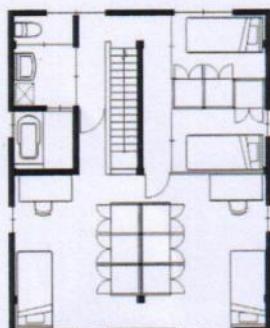




「秘密の場所が欲しかった。」

「子どもたちは、階段の下に集まって何やら相談中。面白い場所を見つける天才だわ。」

「自分セットがあれば、どこでも勉強できるよ。」



子どもの兄弟の関係と夫婦の関係は、相似しているのかも知れない。
家族としての親しみと、人としての敬い。
夫婦はそれぞれに仕事を持ち、
その仕事に人生を打ち込んでいる。
当然、みんながそれぞれのデスクを持つ。
夫婦は上手に心を通わせる道を残しつつ、
仕事もファッションも独立している。
そんな二人の姿を日頃から見て、
子ども達は大人というものを実感する。
自分の将来の手本として。
互いを尊重する関係の手本として。



「布きれひとつだって、部屋を仕切ることができる。」

「うちの匂いは木の匂い。」

「床の上も、勉強部屋だよ。」

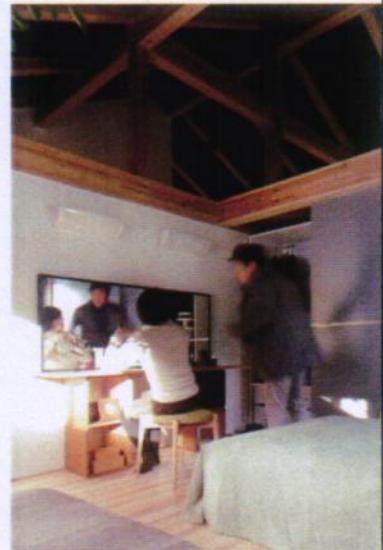
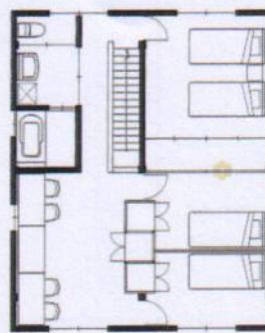


「お庭でお母さんから花の名前を教わった。」

「収納はあればあるだけ甘えてしまう。」「みんながまつたりできる空間が欲しい。」

「家族の気配を頭の上で感じる。つながってる天井って面白いね。」

2階の家族の間は、学習コーナー。
いくつになっても学ぶことは多い。
1階で過ごしている時と、少し趣の違う雰囲気が流れている。
その姿を一番に観察するのは子どもたち。
人が学んでいる後姿ほど、学ぶ気持ちにさせてくれることはない。
父は趣味のラジコン飛行機に没頭し、母はアレンジメントの発表が近い。
代わりに子ども部屋は小さくても良い。
しっかりと確保された主室の、天井は吹き抜けで屋根垂木が見える。



「妻と一緒にドレッサーを使うって、思ってたよりもずっといい。」

「そろそろわたしだけの扉が欲しい。」

「友だちの子どもは、私の新しい友だち。」

「1階は友だちも含めたワンルームだけど、2階は家族だけの空間だよね。」

「近くに来たらあいつの車があった。
ちょっと寄っていこう。」



自由な発想を広げれば、家の使い方に限りはない。
兄弟が並んで学習をし、同じように並んで就寝する。
廊下だってうまく仕切れば書斎になる。
両袖に立ち上がった壁は、自分だけの空間と時間をつくるのに、あまりにも立派に役立つことになる。
主室のベッドの並び方にも、まるで「ともだち」のように、つき合いながら接している、夫婦の関係を伺うことができる。

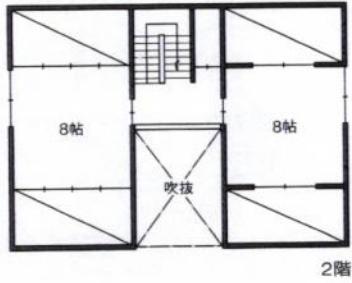
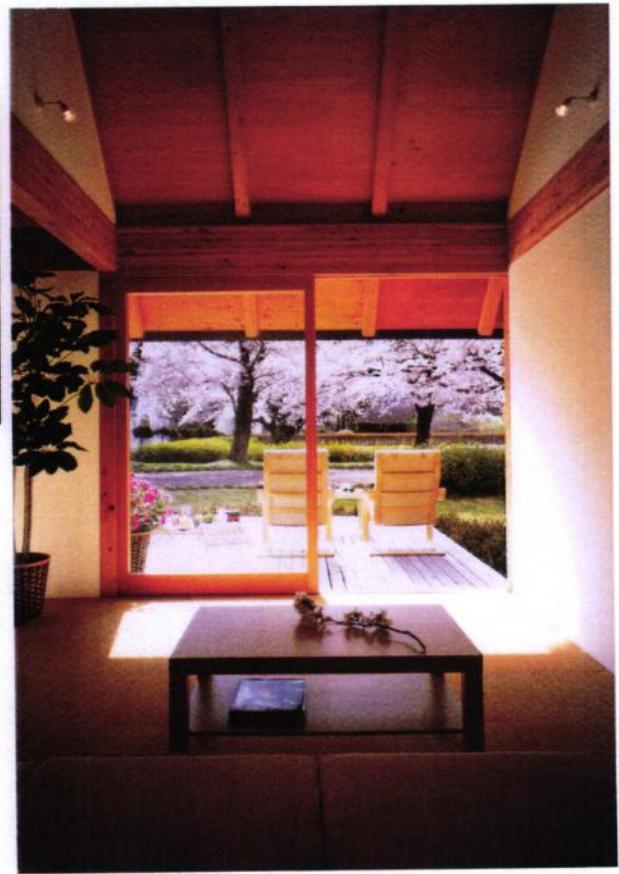
岩瀬牧場



2008年 グッドデザイン賞 受賞

世界中の人共感する家

何かの折に心のなかにポッと浮かぶあらまほしき像を“原風景”といいます。父母の姿やしぐさ、一息つける安らぎの空間、町並みにあふれる喧騒や静寂は、心のなかに焼き付いた写真のようなものです。誰もが懐かしさを覚え共感できる居心地の良さを導くためにふさわしい住まいがここにあります。



施工面積 1階 72m² 2階 62m² 合計 134m² (約41坪)

出居民家



「もてなし」の心が活きる家

「出居」は、源氏物語の時代から日本人が育くみ受け継いできた“もてなしの心”をあらわす語らいの空間です。家族、客人に限らず、大切な思いをそっと招き入れる場も「出居」のひとつです。3mの階高、勾配天井の吹き抜け、木の香が迎えてくれる空間はさしづめ“心の縁側”的なたたずまいを備えています。

